



富士見だより

HPのQRコード



羽村市立富士見小学校

校長 市川 晃司

令和7年9月1日 第5号

TEL: 042 (554) 6449

FAX: 042 (578) 1522

日本を、そして世界を意識できる人に

44日間の長く暑い夏休みが終わりました。子供たちは、家庭や地域でどのように過ごし、どのような成長が見られたでしょうか。夏休み前の一学期終業式では、次の3点について話をしました。

- ① 命を大切にすること。
- ② 家族の一員として、一つでよいのでお手伝いを続ける。
- ③ 地域の一員として、イベントやお祭りに参加する。(保護者の承諾の下で)

夏休み中、大きな事故やけがの報告がなく、安心しました。家族や地域の一員としてどのように生活したのか、各学級で共有することにより、より一層の成長につなげてまいります。

さて、去る7月12日(土)、プリモホールゆとろぎにおいて「青梅市・羽村市 能登半島復興支援チャリティパフォーマンス」が開催されました。これは、令和6年元旦に発生した能登半島地震から1年、奥能登豪雨から半年以上が経ち、現地の復旧・復興支援を継続していくことを目的としています。令和6年4月に日本航空高校石川が青梅市に避難的移転し、青梅市との包括連携協定締結を始め、羽村市を含む地域との連携が積極的に行われています。本校からは金管バンド部がエントリーし、4曲を披露して復興支援の機運を高めました。子供たちは練習を行うに当たり、災害の様子や被害の状況を調べ、被害に遭われた方に想いを馳せながら練習に取り組みました。故郷から離れた場所で勉強や吹奏楽に励む日本航空高校石川のお兄さん、お姉さんの力強い姿に心が動かされた子供もいて、貴重な経験となりました。

チャリティパフォーマンスからさかのぼること一か月前の6月11日(水)、「富士見小千羽鶴プロジェクト」を実施しました。これは、羽村市が「はむら千羽鶴プロジェクト」として、戦後80年の今年、平和の願いが込められた折り鶴を千羽鶴として、8月にピースメッセンジャー(中学生)が羽村市から広島市に届ける企画を行うことに関連する取組です。「思いやりの心」「助け合う心」「命を大切にすること」等を醸成し、平和を願い平和な社会を実現しようとする子供を育成する目的を踏まえ、担当の教員が話し合い企画しました。具体的には、次のような取組です。

- ① 事前に、平和について各学年の発達段階に応じて学ぶ。
- ② 本校の特色である異年齢集団による活動(たてわり班活動)により、異年齢で教え合いながら千羽鶴を折る。(6月11日)
- ③ 7月下旬に周辺施設から送られてくる折り鶴と合わせて、5年生が千羽鶴にまとめる。
- ④ 千羽鶴を代表委員会児童が羽村市長に届ける。

夏休み中には、戦後80年に関する様々な式典やイベント、報道がありました。子供たちが自分たちの折り鶴づくりを思い出してくれたら・・・と感じました。

日本を、そして世界を意識することは、教育の目的の一つである「社会の形成者」の育成につながります。そのために、まずは家族の一員、そして地域の一員としての自覚を高めることが大切であると思い、一学期の終業式で前述の話をしました。

二学期は、最も長い学期です。子供たちが落ち着いて主体的に学習に取り組めるための環境づくりに努めます。また、「運動会」「音楽学習発表会」と大きな行事が続きます。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、引き続きの御支援、御協力をよろしくお願いいたします。